

子どもたちを取り巻く大きな学び舎
—御神木と煙突を塔がっつなぐ—

1220065 桑原みなみ
指導教員 渡辺 菊眞

高知工科大学 システム工学群 建築都市デザイン専攻

1 背景

近年共働きや一人親家庭の増加、核家族化など家族のあり方の変化により、子育てを支援するための保育園や学童の必要性は高まっている。特に人口が多い場所では施設に入れず待機児童になってしまう現状もある。また保育園や学童は幼少期の大切な学びの場であり、成長過程において様々なものに触れることは重要である。そのため保育園や学童は豊かな環境であることが望ましい。

高知県香美市土佐山田町神母ノ木地区に目を向けると、この地区は特色ある地形や環境があり大変豊かに感じる。この地区内には片地保育園が存在し、香長平野の眺望をはじめ、北側高台の墓地、集落の人とのかかわりなど周辺環境が多様である。一方、学童はこの地区内にはなく、小学校敷地内の限られた環境下にある。放課後や休日学童で過ごし、学校以外での学びを得る機会が少ない子どもたちにとって良い環境とはいえない。

そこで神母ノ木地区に保育園、学童の双方があることで子どもたちの幼少期の体験や記憶を豊かにする必要があるのではないかと、また異なる学年の子どもたちが同じ地区内で学び遊ぶことで単独では得られない学びの獲得や子どもたち相互のより良い成長が期待できるのではないかと考える。



図1 神母ノ木の航空写真

※1 出典：国土地理院撮影の空中写真に場所名、図形、方位を追記して掲載

2 目的

本設計は以下の二点を目的とする。

- ・子どもたちを取り巻く環境を学び舎とした保育園と学童の計画をする。
- ・子どもたちを取り巻く環境を広げるために、神母ノ木地区、学童、保育園がそれとなくつながりをもてるように計画する。

3 対象敷地

敷地として神母ノ木地区から南北二つの領域を選定した。保育園は北側の現片地保育園のある領域、学童は南領域に計画した。ここには煙突のある工場跡とその傍に空き地がある。また二つの領域の間には神母神社の御神木がある。本計画では御神木は神母ノ木地区の心のより

どころとしてとらえ、これを含んだ大きな学び舎として計画する。

領域の特徴として、北領域は集落の中心的な位置にあり、以前から学校や役場があった。周辺環境も豊かで今現在も子どもが育つ場として片地保育園がある。一方で南領域は集落のはずれに当たり、工場跡や事務所跡などが一部残っていたり、不思議な様態の場所が多い。神母ノ木地区には面白いものや魅力的な物はここに限らず多く点在しているが、この領域は集落のはずれだからこそ、整備や規制がゆるく、秘密基地のような面白さがある。

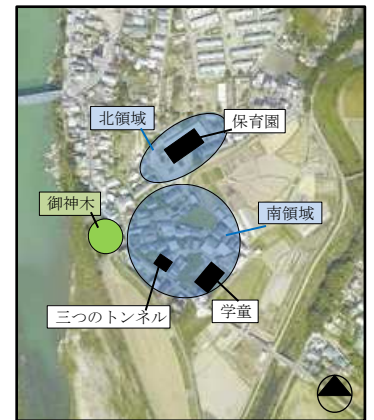


図2 対象敷地

※1 出典：国土地理院撮影の空中写真に場所名、図形 方位を追記して掲載

4 設計指針

全体設計指針としては、北領域と南領域、その間にある御神木をひとまとまりの環境としてとらえ、それを大きな学び舎とする。保育園と学童は大きな学び舎の中でそれとなくつながる。ふとした時につながりを感じ、他学年とのかかわりのきっかけを生む計画とすることで子どもたちの学びを広げる。

個別の設計指針を以下に記す。

保育園は、地形的特徴である北側法面や南側眺望を活かした配置計画とし、園舎にはパッシブシステムを導入する。また保育園からは南領域の煙突や御神木を意識できるような計画とし、他領域から見える保育園は象徴性を持つように計画する。

学童は工場跡に計画し、既存の煙突に寄り添い、南領域の象徴である煙突を意識できるような計画とする。また学童の屋内遊戯室は保育園の遊戯室としても併用できる機能計画とする。

三つのトンネルは北領域、南領域、御神木への軸を感じられる計画とする。ただしここは空き地としてあり、必ずしも遊び場として強要しない存在とする。

5 設計

5-1 全体設計

北領域には、塔のある保育園、南領域には煙突と隣接する学童を建てた。また学童の一部として、工場跡の傍にある空き地に三つのトンネルを計画した。保育園には南北二つの塔があり一つは神母神社の御神木、もう一つは学童のある工場跡の煙突に向いた軸を持ち、御神木と煙突を保育園の塔がつなぐ。また学童の傍の空き地にあるトンネルは「御神木」「煙突」「塔」の三つに対して軸を持っておりトンネルを覗くとそれぞれが見える。異なる領域にあるもの同士がそれとなくつながりをもつことで子どもたちの学び舎が大きな環境へと広がる。



図3 配置図

5-2 個別設計

5-2-1 保育園

I 設計内容

配置計画として北側園庭型とし、保育室が法面に向かって開く計画とした。各保育室にはパッシブシステムを導入している。また学童のある南領域と御神木のそれぞれに向く2つの大きな塔を立て、その間にブリッジを架けた。

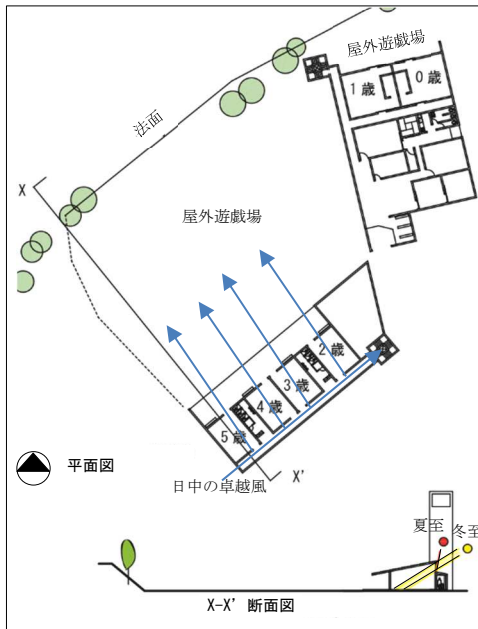


図4 保育園図面 S=1/1000

II 情景

園児たちは毎日2本の塔を見ながら保育園に通い、塔とブリッジを通って保育室に向かう。塔では上部の開口からぼんやりと光りが落ち、下から上に向かって突き上げるような風が吹く時もある。また子どもたちは北側法面

に向けて、南西からの卓越風に押されるように外へ飛び出しかけまわる。

5-2-2 学童

I 設計内容

学童は工場跡に沿って計画した。内部空間は既存の煙突に向けて廊下が一筋でつながっており、煙

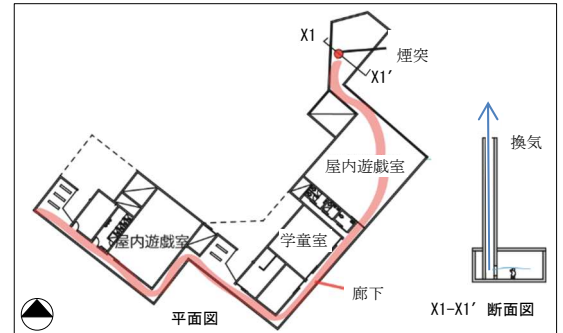


図5 学童図面 S=1/1000

II 情景

遊びの中で自然と子どもたちが煙突に集まっていくような内部空間になっており、風と共に煙突に吸い込まれるような感覚になる。また屋内遊戯室を園児と学童生が利用できることで双方の関わりのきっかけとなる。

5-2-3 三つのトンネル

I 設計内容

既存の小屋を連続させた切妻のトンネル空間を「御神木」「煙突」「塔」のそれぞれに向けて軸を持つように計画した。トンネルを覗くと対象物が見える。

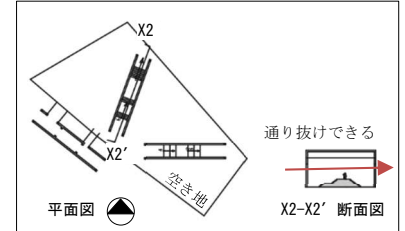


図6 トンネル図面 S=1/1000

II 情景

子どもたちがやってきた際には、トンネルを通り抜けたり、周辺を走ったりして遊ぶ。反対に誰も来ない時には、ただ三つの切妻トンネルが放置された空き地でしかない。

6 まとめ

子どもたちの学び舎が豊かに広がり、神母ノ木地区ならではの環境を十分に感じられる学び舎となった。また子どもたちがここならではの環境を感受しながら生き生きと遊び学ぶことで、神母ノ木地区にも生き生きとした暮らしが展開されていくのではないかと思います。

7 参考文献

※1 国土地理院地図の航空写真 (2月8日取得)

<https://maps.gsi.go.jp/#17/33.614284/133.716944/&base=ort&ls=ort&disp=1&vs=c1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f2&d=m>